



# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



## ●RSウイルス感染症が流行しています。

### ◆RSウイルス感染症について

RSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。発症の中心は0~1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は感染すると言われています。

### ◆どんな病気？

・**症状**……発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみませんが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全がある場合は重症化のリスクが高いと言われています。また、初めての感染では症状が重くなりやすいと言われており、特に乳児の早い時期(生後数週間~数ヶ月間)に感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

・**潜伏期間**……2~8日程度(典型的には4~6日)です。

・**感染経路**……感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手や物(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染があります。

2歳以上で再感染・再々感染した場合に、症状としては軽い咳や鼻汁程度しかみられず、保育所に平常時と変わらず通っている場合があります。また、保護者や職員が感染することもあるため、これらの人が感染源となり、周囲に感染が拡大することもあります。

・**流行期**……主に秋から冬にかけて流行します。

感染した場合、特効薬はありませんので、治療は基本的には対症療法になります。

### ◆予防法や対策は？

手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生的に保つ事です。特に子どもを預かる施設では、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは、アルコールなどでこまめに消毒するようにしましょう。

また、流行状況を常に把握しておくことが重要で、流行期には、0歳児と1歳以上のクラスは互いに接触しないよう離しておき、互いの交流を制限することで、重症化しやすい乳児への感染を予防することができます。特に、呼吸器症状がある年長児が乳児に接触することを避けましょう。罹患した場合の登園のめやすは、「呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと」です。参考文献:保育所における感染症対策ガイドライン(2023(令和5)年5月一部改訂)



こども家庭庁ホームページ  
「保育所における感染症対策ガイドライン」QRコード



定点 種別	期 間		2023年 30週		2023年 31週	
			7/24~7/30(最新)		7/31~8/6(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
C O N V I D E N - 1 9	インフルエンザ		193	7.72	94	3.76
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		487	19.48	494	19.76
小 児 科	RSウイルス感染症		88	5.50	72	4.50
	咽頭結膜熱(プール熱)		4	0.25	5	0.31
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19	1.19	19	1.19
	感染性胃腸炎		36	2.25	43	2.69
	水痘(みずぼうそう)		0	0.00	5	0.31
	手足口病		28	1.75	38	2.38
	伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
	突発性発しん		2	0.13	4	0.25
	ヘルパンギーナ		55	3.44	54	3.38
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		5	0.31	2	0.13
眼 科	急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)		5	1.00	3	0.60
基 幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00